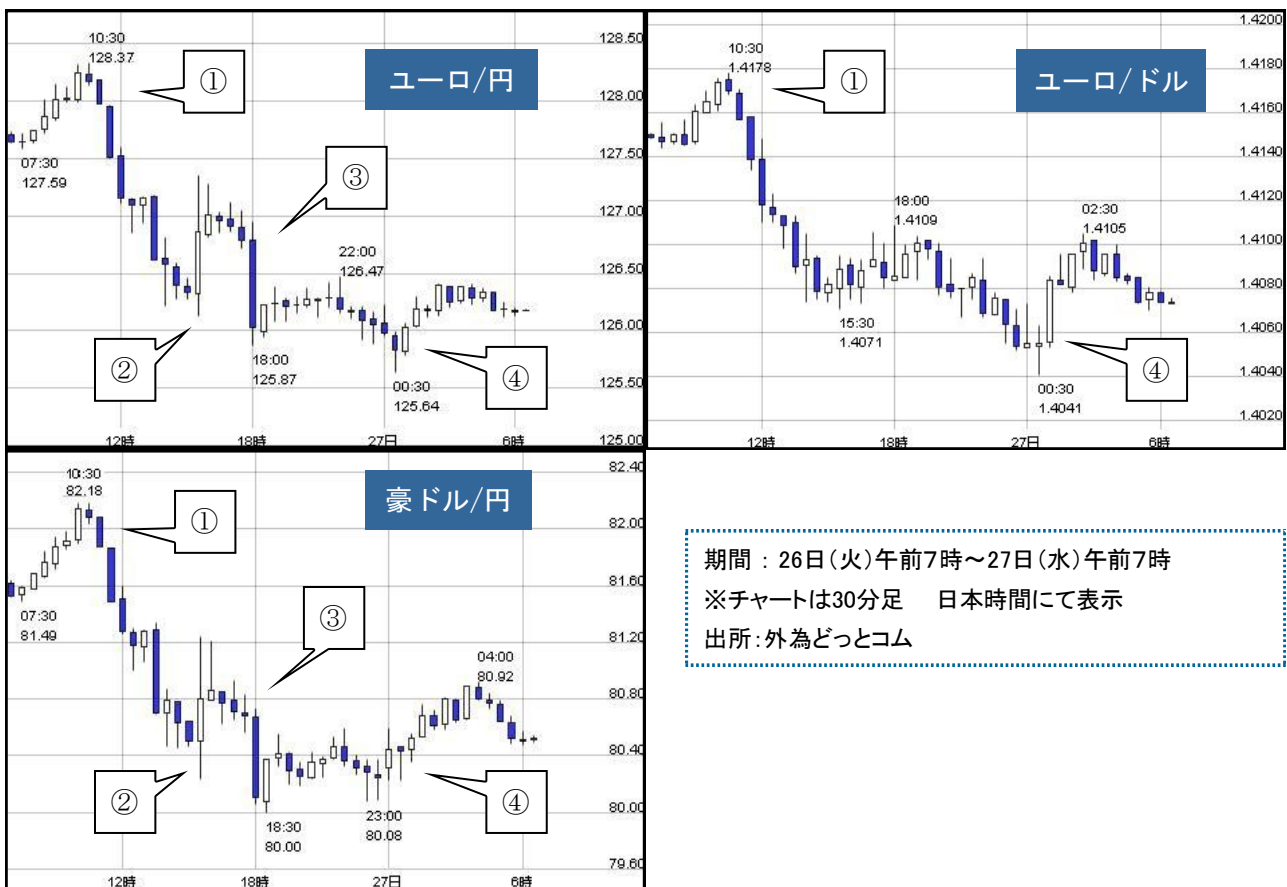


主要通貨の日々の推移をわかりやすく解説し、今後の見通しをお届けします。

1月27日(水曜日)
ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

米国の二大イベントを睨んだ動きに

26日(火)の主な推移



期間：26日(火)午前7時～27日(水)午前7時
※チャートは30分足 日本時間にて表示
出所：外為どっとコム

- ① 「中国の一部銀行が預金準備率の引き上げ指示(26日実施)を受けた」との報道をきっかけにリスクを回避姿勢が強まり、欧州・オセアニア通貨がドルや円に対して下落。さらに、日銀が事前に期待されていた金融緩和を実施しないことが明らかになると、主要通貨に対する円全面高の進行に拍車が掛った。
- ② 米格付け会社S&Pが日本国債の格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げ、「財政・デフレ圧力を食い止める対策を取らなければ格下げの可能性があると」したこと、円が急落した。
- ③ 格付け会社ムーディーズとフィッチが相次いで「日本の格付け見通しを『安定的』で維持する」と発表したことや、野田財務副大臣の「格下げの事態にならないよう、市場と対話していく」との発言を受け、再び円買い優勢の展開となった。
- ④ 日本時間27日0時に発表された米消費者信頼感指数が55.9と、市場予想(53.5)を上回り2008年9月以来の強い結果になると、株価が上昇に転じ、欧州・オセアニア通貨も上昇した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・主要新興国(BRICs)を中心にドル離れに動くとの観測(ユーロ上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.4000-1.4210ドル
 ユーロ/円 : 125.50-127.80円

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 79.20-82.00円

本日の欧州市場では独1月消費者物価指数・速報値の発表が予定されている。もともと、日本時間28日未明には米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明文の発表、同日11時にはオバマ米大統領の一般教書演説という大きなイベントが予定されており、独消費者物価については結果が市場予想からかなり乖離しない限り、持続的に材料視される公算は小さい。さらに、注目の二大イベントの中でもFOMCについては、米連邦公開市場委員会(FRB)のバーナンキ議長の前任が確定していない中で金融政策が変更される可能性は低い。従って、本日のところは基本的にイベント前の手控え感から値動きは限定的なものになるとみる。

本日の豪ドル/円は昨日の大幅な下げをどこまで縮小するか、あるいは昨日踏みとどまった80円の大台を下回ってしまうのが焦点となる。基本的には従来通り、各国株価をみて「株高なら豪ドル高、株安なら豪ドル安」という動きになるとみられるが、足元では急速に中国の引き締め観測が高まっており、積極的に豪ドルを買いには行きづらい状況。一方、昨日のサプライズ連発でも80.00円のラインは保持されただけに、よほど新規の円高要因(あるいは豪ドル安要因)が出ない限り、この水準では底堅く推移しそうだ。

本日から明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/27(水)	未定	○	(独) 1月消費者物価指数・速報[前月比]	+0.8%	-0.3%
	24:00	○	(米) 12月新築住宅販売件数[年率換算]	35.5万件	36.6万件
	28:15	◎	(米) FOMC声明文発表	—	—
1/28(木)	5:00		(NZ) RBNZ オフィシャル・キャッシュレートの発表	2.50%	2.50%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。